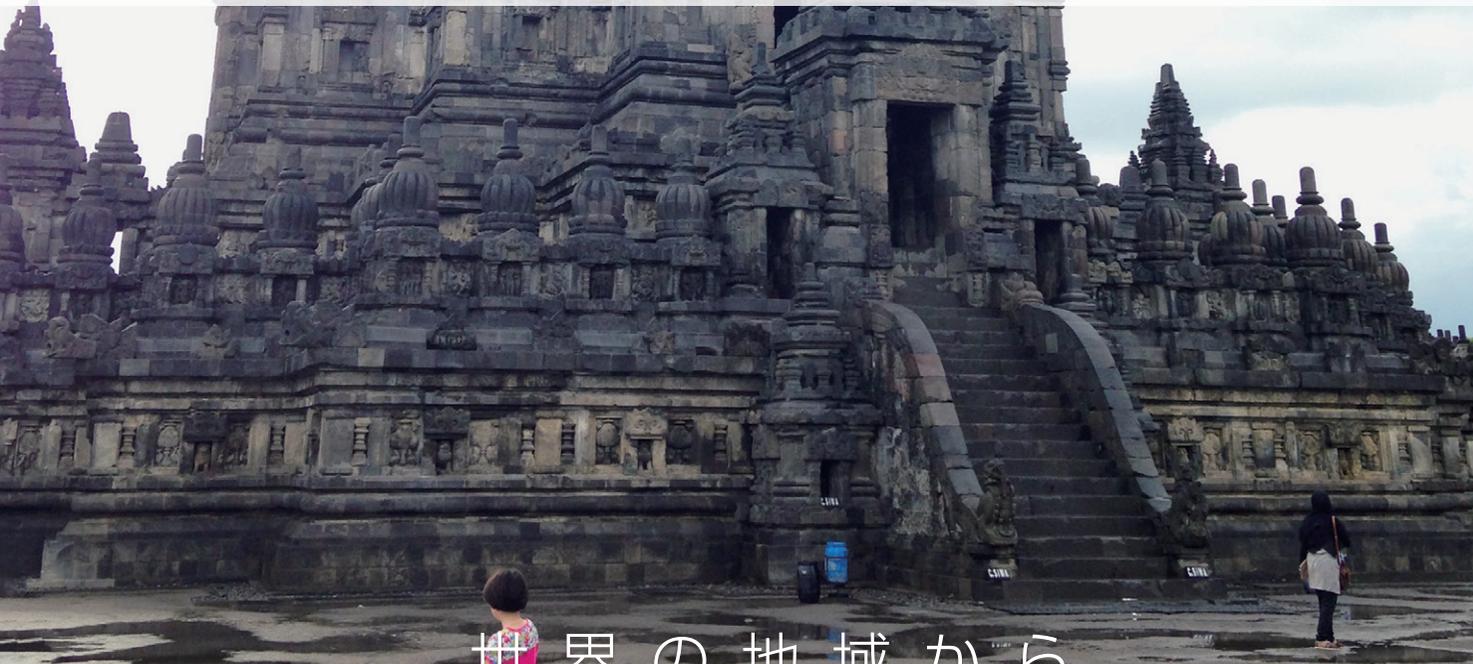


プランバナン寺院遺跡群

1991年にユネスコ世界遺産に登録されたプランバナン寺院遺跡群は、8～9世紀の間にインドネシアの南部ジャワ島を治めていたマタラム朝によって建てられた、インドネシア最大の敷地面積を持つヒンドゥー教寺院群です。中心にそびえ立つシヴァ神殿は、ヒンドゥー教最高神のシヴァが祀られており、天へと向かって建っているように見えます。これはヒンドゥー建築の典型とされており、塔の下部は人間や動物の場所（不浄の場所）、上部は神の領域を表しています。また、寺院の周りの壁には、ほかの寺院では見ることができないレリーフや、「ラーマーヤナ」というインドの古代叙事詩の中の物語を表す素晴らしい彫刻などが残っています。



世界の地域から

ジョグジャカルタ、バリ島（インドネシア）



バリ島に点在するヒンドゥー教寺院

島民の約80%がヒンドゥー教を信仰しているとされているバリ島には、家屋の中や中庭、市場、墓地、田園、ビーチ、洞窟など、島中の至る所に大小さまざまなヒンドゥー教寺院が多数点在しており、その数は1万以上とも推定されています。こうしたヒンドゥー教寺院の姿を通して、ある特定の神を崇拝するだけでなく、自然界に棲む精霊、すなわち善霊や悪霊、先祖神にも祈りを捧げるという、バリ・ヒンドゥー教独自の世界観を垣間見ることができます。